

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

《10月の病虫害発生予報》

＜作物＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(発生に注意)				

＜果樹類＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
みかん			黒点病 ミカンハダニ		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
果樹類全般			果樹カメムシ類		

＜野菜類＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			アザミウマ類	褐紋病	
きゅうり		うどんこ病			
		炭そ病・褐斑病			
		べと病	ウリノメイガ ミナミキイロアザミウマ		
あぶらな科野菜 (キャベツ・ しろな等)			根こぶ病		
			ハイマダラノメイガ		
			コナガ		

＜その他＞

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類全般			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■ 10月の発生に注意が必要な病害虫

【みかん】	ミカンハダニ
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ（フラス）
【果樹類全般】	果樹カメムシ類
【なす】	褐紋病
【あぶらな科野菜】	ハイマダラノメイガ
【野菜類・花き類】	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ

《(参考)10月の気象予報》(大阪管区气象台9月24日発表)

気温	低い（20%）	平年並（40%）	高い（40%）
降水量	少ない（40%）	平年並（40%）	多い（20%）
日照時間	少ない（20%）	平年並（40%）	多い（40%）

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[防除上考慮すべき事項] ・近年、生息地域が拡大している。 ・貝の密度を低くするために、刈り取り後、耕うんして貝をひき潰す。

B 果樹

1 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 [注意すべき事項] ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ（みかんを除く）では収穫 90 日前までなので注意する。
ミカンハダニ	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・10月の気温は、平年よりやや高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
クビアカツ ヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。 ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻く。 ・フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出して薬剤を注入するか幼虫を突き刺すなどして殺虫する。

3 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並～やや多いであった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に露地栽培で発生し、降雨により発生が増加する。 ・摘葉し、ほ場内の風通しを良くする。 ・発病を確認したら、小黑点（柄子殻）が生じる前に発病部位を取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・種子伝染するため、感染した株からの採種は行わない。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・10月の気温はやや高いと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・ミナミキイロアザミウマは、感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。 ・ハウス栽培で開口部の被覆に使用する場合、0.8mm 目合の赤色ネットは 0.4mm 目合の白色ネットと同等の効果がある。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、他の病気に比べて乾燥条件下で多発する。
炭そ病・褐斑病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意する。 ・ハウス内の多湿状態を避ける。 ・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。
べと病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意する。 ・ハウス内の多湿状態を避ける。 ・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビー、ホライズン)の連用は避ける。
ウリノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・食害株の幼虫を捕殺する。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・10月の気温はやや高いと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・施設では、開口部の被覆に使用する場合、0.8mm 目合の赤色ネットは 0.4mm 目合の白色ネットと同等の効果がある。 ・ウイルスを媒介する可能性もあるので、防除を適切に行う。

3 あぶらな科野菜（キャベツ・しろな等）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の9月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶらな科野菜の連作を避ける。 ・早植えを避ける。 ・土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。 ・前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。 ・土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場は避ける。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数、予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯への飛来虫数は、平年並～やや多いであった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、育苗中にかん注剤の施用を行い、発生初期に防除を徹底する。

D 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並～やや多いであった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハスモンヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> 最新の防除指針を掲載しています。

●病虫害発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ
メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousi komi.html>

※年間約15件の病虫害情報を電子メールで送付します。(情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です)

●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所
企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

※最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

●「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>

「暑さ指数情報発信サービス登録サイト」(環境省熱中症予防情報サイト内)

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php

※大阪府では、府民のみなさまに夏の暑さに備えていただくため、「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設しています。「暑さ対策」の情報サービスのお知らせや暑さをしのぐ工夫や情報もごぞいます。熱中症対策には是非ご活用ください。